

放送大学鳥取同窓会会報

麒麟きりん

第1号

編集：編集委員会
発行日：2012年4月1日
発行人：西本 弘之
〒680-0845
鳥取市富安 2-138-4
放送大学鳥取学習センター内



放送大学鳥取同窓会設立総会

平成23年4月17日

私にとっての放送大学

放送大学鳥取同窓会長 西本 弘之

放送大学鳥取同窓会は、平成23年4月17日に設立することができました。ほぼ1年を経たところですが、同窓会の発会すぐ前の3月11日に、日本において歴史に残る大きな地震とそれに伴う大津波が発生した年の1年でした。多くの方が被災されました。亡くなられた方にはご冥福をお祈りすると共に被災された方々にはお見舞いを申し上げます。

同窓会としては、1年間は大きな事業はできなかったのですが学友会、鳥取学習センターの職員の皆さんに協力を受けながら歩き始めたところです。大変ありがとうございました。

私にとっての放送大学は、自分の仕事に使える技術開発の整理をすることとして勉強してきました。放送大学との関わりは、日本海側の対岸諸国との交流を目的として、

1997年に1ヶ月間韓国へ滞在する機会がありました。訪問先で「日本の文化」について通信教育で勉強している人に会いました。その人と比較して、韓国の事を知らないことが多かったことから、偶然見た放送大学の案内で「朝鮮の歴史と文化」という科目があることを知り受講を始めました。放送大学は、科目の選択幅が広いのが魅力でした。公設の研究機関で研究開発の業務を行う関係で、自分の専門分野の技術関係のことを整理する意味で、技術関係の全体像を勉強することができました。一度卒業をしたのですが、再度入学して勉強を始めていますが、退職することとなり焦らず知識の散歩を楽しもうと考えています。

皆さんの協力により第1号の機関誌を発行することができました。今後ともよろしくお願いいたします。

放送大学鳥取学習センター 同窓会創立お祝い

放送大学鳥取学習センター所長 西田良平

放送大学鳥取学習センター設立から15周年を前に、待望の「同窓会」が関係者の御努力により設立しましたこと、心からお慶び申し上げます。鳥取学習センターは全国で最小のセンターですが、100名を超える卒業生・修了生を送り出しましたことは、在学された方々、センター職員の皆様の地道な努力の積み重ねの成果と感謝申し上げます。

放送大学は放送教材と印刷教材で自主的に学ぶことが本意です。しかし、センターでは日頃の勉学の中やいろいろな行事で、学生の交流が生まれ、多くの絆が創られてきました。学ぶことの楽しさを共有され、苦勞を語り合われた卒業生の皆様は、社会の中でそれぞれの分野の活動に頑張っておられることと推察いたします。

卒業生の幾人かの方は再入学され、学ぶことを継続されることで、行事やセミナーなどに参加していただき、放送大学との繋がりを持っていただいています。一方、多くの卒業生の方には放送大学鳥取学習センターのいろいろな情報をお伝えすることができなくなっていました。しかし、同窓会が設立されましたことで絆が継続され、放送大学の現状、催しやセミナー・講演会の情報をお知らせすることが出来るようになりました。

鳥取学習センターには、在学生全員が参加している「学友会」があり、この他にも「書に親しむ会」「ノルディック・ウォークの会」「ジオ部」など楽しいクラブ活動も行われています。同窓会会員の皆様へ、学友会、センターとの共催で行われる行事の情報をお知らせしますので、是非ご参加ください。これからも鳥取学習センターにご関心を持っていただき、ご協力・ご支援いただくことをお願い致します。

「放送大学鳥取学習センター同窓会」が発展するとともに、卒業生・修了生の皆様のご活躍とご健勝を祈念しています。

ともに学ぶよろこび

放送大学鳥取学習センター初代所長 赤木三郎

放送大学の皆さんが、志を立て、自らが学習の時間を作り、それを我慢強く持続されている姿勢に敬服いたしております。自学自習が原則の放送大学ですが、どなたも身近な学友の真摯なその姿勢に打たれ、お互い自らを励ましておられることと思います。放送大学の学生さんはすでに社会人であったり、社会のOBであったりと、年齢、職域、過去の経験も様々です。どなたも何か一芸に秀でておられます。放送大学での出会いを大切に、お互いに学びあい、語り合い、教えあうことで放送大学を一層楽しいよろこびの場にしてください。

鳥取同窓会会報の創刊に当たって

放送大学鳥取同窓会副会長 田中 穰

放送大学鳥取同窓会が設立されて一ヵ年が経ち、ここに本会報が創刊されることは、誠に慶賀の念にたえません。省みれば平成22年9月26日の設立準備会に至るまでの学習センター西田所長をはじめとする職員の方々、並びに同窓会発起人の皆様方の並々ならぬご尽力があつての今回の創刊であり、これに対して厚くお礼を申し上げます。さて、放送大学学生は年齢範囲が極めて広く、職業も多様であり、特に就学目標は各人各様であるだけに、同窓会も小中高校のような一般的な同窓会と異なってもよいではなからうかと考え、私なりの意見を述べさせていただきます。参考迄に“同窓”という言葉について辞書を開いてみたところ「同窓とは、同じ学校で、または同じ師について学んだこと。」とあり、「同窓会とは同じ学校の出身者が集まった組織。また、その会合。」とありました。各人各様の解釈があらうかと思いますが、同窓の卒業生がただ何名居ると言うだけでは意味は少なく単なるデータに過ぎないでしょう。意味ある同窓生にするには組織化し情報化することでありましょう。幸い、鳥取同窓会は設立され、同窓会名簿も発行され、見学会、懇親会等々がここ一年間で実施されております。大変喜ばしいことでもあります。放送大学は全国に広く浸透されるに至り膨大な同窓生が存在し、同窓会連合会としての全国的な組織も既に設立されている訳ですが、その活動は組織上限られたものとなるでしょう。それに対し、鳥取学習センター規模での組織化された同窓会は、会員相互の親睦と知恵を出しあい易く、個性のある豊かな活動が実行し易いのではなからうかと思われまふ。その為には皆様の協力を頂きながら、会員の拡大と名簿内容の充実をはかりたいものです。



放送大学と私

吉田博志

私は、平成18年10月1日に放送大学に入学し、平成22年9月30日に卒業しました。三年編入学で、自分では二年間で卒業する予定でしたが、倍の四年かかってしまいました。入学当初は週に二回程度学習センターに通い、ビデオやテープを視聴する真面目な学生でした。仕事の関係で昼間でも時間が自由に使えたので、ポッカリと日の当たった窓際の席で時々街路を見下ろしながらビデオを視聴するのは、なんとも自由な感じがして、印象深く当時のことを思い出します。鳥取学習センターも今の市庁舎五階に移ったばかりの頃らしく、イヤホンやヘッドホンなどの視聴器具が次々に変わっていた頃でした。

私は、東京の私立大学を訳あって中退し、鳥取に帰って来ましたが、それから種々の職を転々としながらも、中途半端に学業を終えたことを悔やむ気持ちが強く、大学の通信教育を受講し、岡山や松江までクルマを走らせて試験を受けたりしていました。しかし、どうしても年に二週間程度の東京でのスクーリングが必須であり、そのことが障碍となり、通信教育も一年で辞めてしまいました。

放送大学の存在を知ったのはそれから暫く経ってからのことでした。同業者の研修会に出席した折、朝から夜までテレビで大学の講座が流れている、面白くて仲々良いよ、と教えてくれる同業者がありました。さっそく、入学の手続きをとりました。

怖いもの知らず、とはそのときの私のためにある言葉だったかもしれません。私は、大学で所定の単位を取得したら司法試験に挑戦するつもりでおりました。しかし、根っからのぼうとした性格が災いし、単位が揃った頃には司法制度改革で旧司法試験は平成22年を最後に終了することになりました。放送大学では過去に数名の司法試験合格者を出していたと思います。

四年間、けして良い成績ではありませんでしたが、私なりに努力し、またお世話になった先生方や職員の方々のお陰で何とか卒業することが出来ました。

今は、法律職の資格試験に向けて勉強しながら、仕事や家のこと（農業）に精を出しています。最近では放送大学で取得出来る認定心理士という資格にも興味があり、試験に合格出来たら、再度放送大学に入学し、心理学を学んでみたいと考えています。

学ぶことに終わりはないと大学での勉強を通じて教わりました。現実との折り合いを付けながらですが、これからも一步一步学業を前進させていきたいと思っています。放送大学がなかったら、あるいはその存在を知らなかったら、いつまでも大学中退という自分にこだわって大きな悔いを背負ったまま鬱々とした毎日を過ごしていたかも知れません。本当に放送大学に感謝しています。



現在、目指していること

中西 恵美子

昨年秋にちょっとしたことから興味本位に占いに行った。人生も折り返しを過ぎて、何かを始めるなら余力のあるうちに・・・と思うのは私だけではないはずだ。

私は若い頃から国と国をつなぐ、いわゆる国際交流に役立つ仕事がしたいと思ってきた。

国際交流と言っても漠然としているが、当時は日本の経済も勢いがあり、多くの外国人が日本を訪れ、日本語の習得熱が高まってきていた。そのころはすでに社会人として働いていたが心機一転、専門学校に入り日本語教育を学ぶことにしたのだった。しかし、せっかく学んだこともそれを生かす場である日本語学校の数は思いのほか少なく、あったとしても低賃金なため、生活していくにはとても大変でほとんどの人は、まったく違う仕事につくか、パートタイムで教えるか、外国の日本語学校で教えるかの選択を余儀なくされた。

私は幸運にも東南アジアの国で日本語を教える経験をもつことができたが、その後はまったく関係ない生活を送ってきたのだ。そして最近思うのである。私のやりたいことは何だったのだろうか・・・と。私の夢？私の人生？今ならまだ間に合うかもしれない。

それで、最初に述べた占いに戻るのである。私は誰かに背中を押してもらいたかったのだろうか。幸か不幸か、「あなたのやりたいことは、うまくいきます」的なことを言われて最近はいい気になっているのかもしれない。週に1回、日本語教師の補佐役としてがんばっている。もちろんボランティアだが、生活にハリができ1週間がとても待ち遠しいのである。鳥取県にもいろいろな国から来ている若者がいて、真面目に日本語に取り組んでいる姿を見ると、自分の普段の生き方を考え直す良いきっかけにもなっている、これからもコミュニケーションをとりながら何かしら彼らに協力ができればと思っている今日この頃である。

この頃思うこと

木幡 勲 夫

定年退職後、永年住み慣れた仙台の地を離れて、ここ鳥取の地に生活の本拠を移して、もう13年余りになります。

こちらに移り住んだ当初は、35度を超すような夏の暑さや、冬の雷などに驚きつつも、今では、当地の気候風土にも慣れ、日本海の幸をはじめとする豊かな鳥取の食文化を楽しませてもらっています。

鳥取県は、鳥取砂丘、国立公園・大山、雄大な日本海など、自然資源には事欠かないし、加えて心と体を癒す多くの温泉が存在する「温泉天国」でもあるという。温泉

好きの私などは、観光とドライブがてら、県内外の温泉地を、たびたび訪れています。

鳥取に来て大きかったのは、今にして思うと、放送大学鳥取学習センターの存在です。鳥取といえば、砂丘ぐらいしか知らなかった私にとって、初めての土地で、右も左もわからない、友人・知人ももちろんないという環境での生活の中で、友だちづくりに役立てばという程度の軽い気持ちで、たまたま、当時開設間もなかった鳥取学習センターに通い始めて、これまで13年余り。放送大学では、多くの出会いの機会があり、学ぶことの楽しさ、よろこびを知ることができ、自分自身を再成長させてくれたように思います。今では、放送大学での学習が、生活の一部になり、生涯学習の柱として、生きがいの一つになっています。

放送大学の学歌にも、「生きるとはまなぶこと」とありますが、今後とも「生涯学習」をモットーに、自らを高める努力を続けていきたいと考えているところです。

私と放送大学の相性

伊藤 貴子

放送大学を相手に、自分との相性とは、ちょっとおかしな言い方ですが、私は、相性がいいのかなと思っています。

年数は、長くなってしまいましたが、今でも、1つ、2つ、科目を取り続けています。最初に入學試験の無いことが、一番良かったです。また、自分の気の向いた時、マイペースのゆっくりでも、出来ること。4月、10月の新学期は、新しい気分で、新しい科目に取り組めて、ボケ防止に役立っていると思っています。通信指導は、急いで提出というとき、やり方はまずいと思うときもありますが、答えさがしをしてでも、とりあえず、締め切りまでに提出します。単位認定試験は苦痛ですが、試験があるので、印刷教材を最後まで読むことができるとしています。

何もしない半年はすぐ過ぎてしまい何も残りませんが、1科目でも2科目でもとっていると少しずつ単位がたまり、やがて卒業ということになります。知らない事を知るよろこびも味わえます。

放送大学の行事(面接授業、単位認定試験、学生研修旅行、いろんな講座)は、とじこもりがちの私か外へ出かけるチャンスとなっています。これからも良好な相性でいたいと思っています。

先輩の皆様、若い皆様、仲間に入れていただき感謝しております。ありがとうございます。



「近況報告等」(24. 4. 1 同窓会総会への出欠回答葉書等から)

林 哲 博

近況を報告します。2学期も間もなく終わろうとしていますが、実はこの5か月の間に高校の同級生2人、元職場の同期生2人と相次いで訃報に接し「自分もそんな年頃になったのか」と、やや重い心を引き摺ったまま、去る3月3日開催の鳥取学習センター開設15周年記念事業実行委員会(第1回)に参加しました。

検討事項のうち、実施内容の検討では次々と発言が続き、展示物では書道、絵画、ジオ部等サークル活動の成果を、催し物の演目では琴・尺八の協奏、ストレッチ体操、お茶・書道・絵手紙の体験等々積極的な発言が続きました。発言からは長年研鑽を積まれた様子がうかがえ、大変心強く、事業の成功が予感され、沈んでいた気持ちも払拭することができました。

若い方から熟年層まで、共に学んでいる放送大学のすばらしさを改めて実感した次第です。自分には皆様に披露できる文化的なものは何もありませんが、設営係の一員にでも加えていただければと思っています。

酒 井 靖 博

昨年9月、2度目の卒業をしました。現在3度目の卒業不足単位は1ですので、3度目もリーチ状態です。前山内センター長の言葉を大切に、「物知りではなく、世の中の役に立つ人間として」頑張ってます。

遠いのでご無沙汰ですが、鳥取同窓会が益々の発展されんことを祈願致します。

赤 木 三 郎

折角ですが、旅行中になりますので欠席します。

放送大学にお世話になって15年。今は、自由な毎日ですが、一学生として在籍、好きな学科を楽しんでおります。放送大学が切磋琢磨して、お互いが向上する場として、発展することを期待しております。

伊 藤 貴 子

月に1~2回でも学習センターに出かけることができたのは、とても恵まれた時間だったという事をあらためて感じています。(母の介護に時間を使っています。)

五 百 川 知 子

昨年の秋卒業し、再入学しました。今回は、ゆっくりと勉強したいと思います。書道部に入り、久々に筆を持ち、墨の香を楽しんでいます。

武 内 久 満

年齢相応に学習を楽しんでいます。暖かくなったらセンターにも伺います。その折はよろしく。

福本峰也

市内でボランティア活動

吉田博志

今年になってから、無趣味の私が老いてゆく楽しみのもと、短歌作りを始めました。朝日新聞の「とっとり歌壇」に掲載されました。ちょっと自慢な私です。

木幡鞆夫

同窓会設立後早や1年、「会員相互の親睦と交流を通して、相互研鑽を図り、併せて、放送大学鳥取学習センターの発展に寄与する」という会の目的に沿って、皆様とともに活動の輪を広げていきたいものです。

森本恵介

手放せない所用のため欠席します。

放送大学鳥取学習センター元客員教員 若良二

外国出張等のため返事が遅くなり申し訳ありません。出席致します。

放送大学鳥取学習センター元客員教員 石川行弘

返事が遅くなり申し訳ありません。会社の仕事の方は順調に運んでいますが、他の団体の事務処理に追いかけられながらの生活にストレスが蓄ります。次の機会には出席させて頂きたく存じます。

【編集後記】

今年は春の訪れが遅く、3月下旬(26日)には、鳥取市内で7センチの積雪がありました。この時期の積雪としては36年ぶりだそうです。サクラの便りが待ち遠しい今日この頃です。

さて、放送大学鳥取同窓会第1号の会報誌を皆様へお届けすることができました。この記念すべき第1号は、現鳥取学習センター西田良平所長様はじめ、同窓会会員の方々から寄せられた原稿を中心に、まとめることができました。

また、当会にとり、平成23年度2学期にご卒業された卒業生の入会は、たいへん嬉しいことでした。

放送大学では、学生ひとりひとりが自主性をもって、日頃、それぞれ独立して学習していますが、互いに孤立することは望ましいことではないと思われまます。当会を基盤に、会員の交流や新しい学びの気持ちを維持していただくと幸いです。

この鳥取同窓会会報誌のいっそうの充実と継続を図るため、皆様から分野を問わず、随時、原稿を募集しています。学びの現在・過去・未来、日頃感じていること、エッセイ、論文、詩など、形式は問いません。原稿をお寄せください。お待ちしております。

表題は、鳥取にちなんで『麒麟(きりん)』と命名しました。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(T.M)